MR5mk3, MR6mk3, MR8mk3

Powered Studio Monitors

日本語
オーナーズマニュアル

MACKIE®

安全のために

この製品を設置、使用される前に必ずお読みください。

お使いになる方や周囲の方々への危害、財産への損害を防ぐため、下記の内容を守ってこの製品を安全にお使いください。本書はいつでもご覧になれる場所に保存してください。

本書で使用する記号について

	「必ず守ってください」という強制を表しています。
	「絶対にしないでください」という禁止を表しています。

⚠警告　この記号は取扱を誤ると死亡や重傷、火災の原因になる可能性がある内容に付いています。

必ず実行

本書をすべて読むこと
この製品を設置、使用する前に必ず本書をすべてよく読み、本書の内容にしたがってください。

必ず実行

電源コードや電源アダプターは仕様に適合した電源に接続すること
適合しない電源に接続すると、本体の故障、火災や感電の原因になる場合があります。

必ず実行

確実に接地すること (アース)
感電を防止するため、確実にアースに接続してください。

禁止

水分をかけたり湿気にさらさないこと
この製品の上に花瓶や飲み物など、液体が入ったものを置かないでください。この製品を直接水がかかる場所、または湿度の高い場所に置かないでください。感電や火災、故障の原因になります。

必ず実行

電源コードや接続ケーブルは安全に配置すること
ケーブルをストーブの近くなど高温になる場所に設置しないでください。また踏んだり物に挟んだり、無理な配線を行うと、ケーブルが損傷して火災の原因になる場合があります。また足など体の一部を引っかけるような場所に配置しないでください。負傷の原因になる場合があります。

禁止

電源コードを濡れた手でさわらないこと
感電の原因になります。

禁止

大音量で使用しないこと
この製品をアンプやスピーカーなど他の機器と組み合わせて、大音量を再生しないでください。一時的または恒常的な難聴や、スピーカーなど接続している機器が故障する原因になる場合があります。

必ず実行

異臭や異常を感じたらただちに電源コードを抜き、修理を依頼すること
正常に機能しない、異臭や異音がするなどの場合は、修理をご依頼ください。

必ず実行

電源コードや電源プラグに異常がある場合は使用を中止し、修理を依頼すること
電源コードやプラグの摩耗、接触不良等の場合は本体を使用せず、修理をご依頼ください。

必ず実行

長時間使用しないときや落雷の危険があるときは電源コードを抜くこと
火災や感電、故障の原因になる場合があります。

禁止

本体内部に液体や物を入れないこと
火災や本体故障の原因になる場合があります。この場合は修理をご依頼ください。

禁止

本体の換気用開口部をふさがないこと
本体内部の温度上昇を防ぐため、この製品の表面には換気用開口部があります。この開口部をふさぐと適切に換気ができず、内部の温度が上昇して故障や火災、誤作動の原因になる場合があります。

⚠警告　この記号は取扱を誤ると死亡や重傷、火災の原因になる可能性がある内容に付いています。

禁止

製品を分解したり改造しないこと
火災や感電、けが、故障の原因になります。本体の内部にはお客様が操作する部分はありません。

禁止

本体の内部や周囲で可燃性ガスのスプレーを使用しないこと
ガスが滞留して引火による火災などの原因になります。

必ず実行

他の機器と接続するときはあらかじめパワードスピーカーの電源を切っておくこと
接続時に大音量のノイズを発生し、聴覚異常やスピーカー破損の原因になる場合があります。

必ず実行

電源コードは必ずこの製品に付属のものを使うこと
適合しないものを使用すると通電中に電源コードが加熱し、火災の原因になる場合があります。

必ず実行

電源プラグに手が届くよう設置すること
この製品の背面には電源を遮断する電源プラグが付いています。この電源プラグに簡単に手が届くよう設置してください。

⚠注意　この記号は取扱を誤ると負傷、機器の損傷や物的損害の原因になる可能性がある内容に付いています。

禁止

高温になる場所に設置しないこと
直射日光が当たる場所、熱を発するものの近くに置かないでください。製品の上にろうそくなど裸火を置かないでください。

禁止

この製品に付属している電源コードを他の電気用品に使用しないこと
この製品に付属している電源コードはこの製品専用のものです。他の電気用品には絶対に使用しないでください。

必ず実行

ヒューズが飛んだ場合は、正しい仕様のものに交換すること
異なる値、仕様のヒューズに交換すると、製品が故障する原因になります。

必ず実行

連続してヒューズが飛ぶ場合は、必ず修理を依頼すること
電源部が故障している場合があります。ヒューズが数回続けて飛ぶときは、この製品をお求めの販売代理店まで修理をお申し付けください。

修理

日本仕様のMackie 製品の修理は、音響特機株式会社または提携サービスセンターで行っています。Mackie 製品の修理やメンテナンスが必要な場合は、次の手順に従ってください。

本書でご紹介しているトラブルシューティングの内容をチェックして下さい。

テクニカルサポートに電話でまたは、support_mackie@otk.co.jp にメールで「メンテナンス申込書」を請求してください。「メンテナンス申込書」に必要事項をご記入の上、04-2944-3812へFAXしてください。折り返しRA番号と送付先のサービスセンターが記載された修理受付票をFAXで返送いたします。RA 番号はサービスセンターへ送付される前に必ず取得してください。

オーナーズマニュアルと電源コードは同梱しないでください。修理には必要がありません。

本体を梱包材とともに製品パッケージに入れて、サービスセンターへ送付してください。当社では輸送上のダメージを保証することができません。

必ず、RA 番号が記載された修理受付票のコピーを同梱してください。また送り状の通信欄にも、RA 番号と商品名、製造番号を記載してください。RA 番号のない修理品は受付することができません。

保証内修理を行う場合には、販売店印とご購入日が明記された保証書が必要です。くわしくは、次項の保証規定をご参照ください。

保証

本機の保証はご購入後1年間となっております。
正常な使用状態で本体に不具合が生じた場合、正規のサービス担当者が無償で修理を行います。ただし、下記の場合は保証規定から除外されておりますので、あらかじめご了承ください。

お客様による輸送、移動中の落下、衝撃など、お客様のお取り扱いが適正ではなかったために故障が生じた場合

お客様のご使用上の誤り、不適正な改造、弊社の認可のない改造及び修理が行われている場合

火災、煙害、ガス害、地震、落雷、風水害などの天変地異、あるいは異常電圧などの外部要因によって故障が生じた場合

本機に接続している機器及び消耗品に起因する故障、損傷

正常な状態でのご使用中でも、自然消耗、摩耗、劣化によって故障あるいは損傷が生じた場合

日本国外でご使用中の故障、損傷

技術的なご質問・修理窓口

サポートセンター

〒359-0023 埼玉県所沢市東所沢2-37-1
㈱サヤマトラフィック 敷地内
☎ 04-2944-3811
FAX 04-2944-3812
Mail support_mackie@otk.co.jp

営業時間　月曜日～金曜日　9:00～17:30
休業日　土曜日・日曜日・祝日・年末年始・夏期

営業窓口

東京　東京都中央区日本橋小伝馬町 10-1
☎ 03-3639-7800 (代表)
FAX 03-3639-7801

大阪　大阪府大阪市淀川区宮原 2-14-4
☎ 06-6152-7751
FAX 06-6152-7752

名古屋　名古屋市東区泉 1-23-30
☎ 052-950-3324
FAX 052-950-3325

福岡　福岡市南区大橋 4-16-18-201
☎ 092-554-6066
FAX 092-554-6064

営業時間　月曜日～金曜日　9:00 ～ 17:30
休業日　土曜日・日曜日・祝日・年末年始・夏期

ご質問は電子メールでも承ります。
Mail sales_mackie@otk.co.jp

Contents

MRmk3の機能 …… 1
はじめに …… 2
クイックスタート …… 3
リアパネル …… 4
1. 電源コネクターとヒューズ …… 4
2.電源スイッチ …… 4
3. インプットジャック …… 4
4. 低域フィルター …… 5
5. 高域フィルター …… 5
6. インプットレベル …… 5
7. カスタム設計バスレフポート …… 5
フロントパネル …… 5
8. ランニングマンロゴ LED …… 5
保護回路 …… 6
過振幅保護 …… 6
温度保護 …… 6
磁気シールド …… 6
入力信号の配線 …… 6
取り扱いとお手入れ …… 6
付録A: サービスに関する情報 …… 7
トラブルシューティング …… 7
付録B: コネクター …… 8
付録C:技術情報 …… 9
MRmk3 仕様 …… 9
MRmk3 寸法 …… 10
MRmk3 ブロックダイヤグラム …… 11

MRmk3の機能

- ミキシングやモニタリング、マルチメディアなど幅広く対応する原音に忠実なサウンド
- 高い明瞭度とクリアさを実現する改良されたウェーブガイドシステム
  - 音の反射と回り込みを最小限に抑え、幅広いスイートスポットを確保
  - 低域から高域まで継ぎ目のないシームレスなサウンドでミキシングでのクリアな音像再現を実現します。
- 完璧なパフォーマンスを再現するマッチングのとれたアンプとスピーカーユニット
  - 50W クラス A/B 級アンプ [MR5mk3]
  - 65W クラス A/B 級アンプ [MR6mk3]
  - 85W クラス A/B 級アンプ [MR8mk3]
  - 5.25 インチポリプロピレンウーファー [MR5mk3]
  - 6.5 インチポリプロピレンウーファー [[MR6mk3]
  - 8 インチポリプロピレンウーファー [MR8mk3]
    - 低域を制御しながら高い出力を実現
  - 1 インチシルクドームツイーター
    - スネアなどの音の立ち上がりの早い音源も忠実に再現
- どんな音源も簡単に接続可能な柔軟性に優れたインプット
- 設置場所にあわせカスタマイズ可能な周波数コントロール機能搭載
  - 2 段階ブーストが可能な低域フィルタースイッチ
  - ブースト / カット コントロール付き高域フィルタースイッチ
- スムーズで伸びのある低域を再現するカスタム設計リアポート
- 耐久性に優れた頑丈な木製キャビネット
- タイトなサウンドを再現するための吸音材で音場を最適化
- スタジオサブウーファー MR10Smk3 を追加することにより低域のパワーと伸びを拡張

Like us
Follow us
Watch our dang videos

はじめに

MRmk3 シリーズパワードスピーカーは音楽を愛する皆さんのためのスピーカーです。音質はもちろんのこと外観やフィーリングなど、皆さんのやる気をかき立てるあらゆる要素を追求しました。MRmk3 シリーズはコンパクトで低価格ながら、自宅やプロジェクトスタジオに最高のミキシング、モニタリング環境を提供します。

機能面も強化され、改良されたウェーブガイドシステムにより、これまで以上に幅広いスイートスポットを確保できます。さらにカスタム設計リアダクトポートによりスムーズで伸びのある低域レスポンスを実現します。

加えて、MRmk3 シリーズはカスタマイズ可能な周波数コントロールを装備し、どんな空間でも最高のサウンドが得られるようにスピーカーを設定できます

音楽制作の始めから終わりまで一貫してカバーすべく設計された MRmk3 フルレンジスピーカーは皆さんの音楽の自然なニュアンスを余すところなく再現します

制作の歴史…

Mackie は 15 年以上もニタースピーカー制作に携わってきました。そして遂に私たちの才能溢れるエンジニア達は皆さんが音楽を愛する気持ちをダイレクトに表現する本物のスピーカーを完成させました。新しい MRmk3 シリーズパワードスピーカーは音楽愛好家やポストプロダクションなどの現場のニーズに応えるための様々な改良が施され、高い明瞭度と解像度を実現。ホームスタジオやプロジェクトスタジオで即戦力として使えます。

もっとも優先すべきは音楽そのものである

Mackieのエンジニアチームは膨大な時間を費やして、あらゆるジャンルの音楽を実際に鳴らしながらMRmk3パワードスタジオモニターを設計しました。音の回り込みを抑え明瞭度の高いサウンドを実現するウェーブガイドシステムや絶妙のバランスと高い解像度を実現するマッチングのとれたアンプやスピーカーユニットなど、紙上のスペックデータでは表現できない本物のサウンドを追求し、あらゆる可能性を試しました。MRmk3はいかなる環境においてもサウンド本来の魅力を忠実に再現します。

さらなる音質を目指して…

音楽の自然なニュアンスを正確に再現することがモニタースピーカーが必要とされる最大の理由です。MRmk3 にはこれを可能にするために設計にも様々な工夫が施されています。パンチのある豊かなローエンドを実現するカスタム設計リアポートや不要な振動を抑えタイトなサウンドを実現する強固な木製キャビネットなど MRmk3 は原音を忠実に再現し、皆さんの音楽の魅力を忠実に再現します。

多目的用途に対応

スタジオはそれぞれ固有の響きがあるので環境にあわせた調整を行う必要があります。

MRmk3 モニターはせ設置場所に応じてサウンドを調整する音響調整用コントロールが用意されています。もっとローが必要？ローエンドを 4dB ブーストして違いを体感してください。ハイをカットまたはブーストすると音のきらびやかさを調整できます。

インプットコネクターには XLR、1/4 インチ、RCA の 3 つのタイプが用意され、いかなる用途にも対応できます。

皆さんのスタジオには最高のモニタリング環境が必要です。MRmk3 シリーズは音楽制作のレベルを一歩先へ導きます。

様々な使用例

MRmk3 は様々な用途で使用できます。下記はその一例です。

- **ホームスタジオ / プロジェクトスタジオ** - ソロアーティスト、小編成バンド、DJ 用音楽制作。ポストプロダクションの編集 / ミックス、ナレーションや音楽のレコーディング、編集、ミックス、マスタリング。
- **放送・放映スタジオ** - 音声配信 / ストリーミング、ラジオやテレビ放送。ポストプロダクションスタジオでの PodCasts やアフレコ録音
- **映像制作ポストプロダクション** - CM制作スタジオ、インターネット配信用映像 / マルチメディア制作
- **ホームシアターやその他マルチメディア用** - 音楽や映画鑑賞、テレビゲーム、ホームパーティーなどの社交用設備

クイックスタート

MRmk3 をすぐにでも試したい気持ちはわかります。はやる気持ちを抑えてまずがこのページをよく読んでください。そして気持ちの向いたときに残りのページを読み進めてください。

キャビネットの背面パネルにあるインプットレベルコントロール [6] が最小の値 (反時計まわりに絞りきった状態) にあることを確認してください。

背面パネルの電源スイッチ [2] をオフにします。こうすることでレベルの大きな信号がモニターに入ってきても驚く事はありません。

Low freq [4] と High freq [5] フィルタースイッチを "0"(NORMAL) の位置にセットします。

ミキサーやプリアンプ、その他のシグナルソースから取り出したラインレベルのモニター出力を MR3mk3 スタジオモニター (1/4 インチ、XLR、RCA) のインプットジャック [3] に接続します。

付属の電源コードをリアパネルの IEC コネクター [1] に差し込み、もう一方の端を IEC コネクターの横に記載された電源電圧に対応する電源コンセントに接続してください。

音源 (8 トラックレコーダー、ターンテーブル、CD デッキ、DAW など) を再生します。このときマスターボリュームはまだ下げきった状態にしておいてください。

MRmk3 の電源スイッチ [2] をオンにします。ランニングマンのロゴ [8] が点灯します。

背面パネルのインプットレベルコントロール [6] を MAX 方向へ向けてゆっくりと時計回りに回します。

ミキサーやプリアンプのマスターボリュームを快適なレベルになるように調整します。MRmk3 のボリュームがすぐに大きくなりすぎてしまう場合はインプットレベルコントロール [6] をセンター (12 時の位置) にセットするとマスターボリュームでコントロールできる範囲が広がります。

MRmk3 のシルキーな高域と圧巻の低域をお楽しみください。その後でこの取扱説明書の残りのページをお読みください。

MRmk3の低域レスポンスと皆さんのスタジオについての特筆事項

MRmk3 は低域再生用に調整された部屋で最高の低域レスポンスが得られます。部屋の形、音量、吸音処理の有無など多くの要素を考慮しなければなりません。

これは言い訳ではなく、物理的に当然の結果です。幸いにも MRmk3 には特定の部屋に対してスピーカーの周波数レスポンスを最適化するための補正用コントロールが装備されています。下記項目を考慮してください。

低域レスポンス

MR8mk3 を部屋の隅や壁に取り付けると、低域の特徴が変化します。モニターを壁に近づけて設置すると低域の音量感はあきらかにが大きくなり、部屋の隅に置くとさらに増大します。

モニターを壁や部屋の隅から離して置きながら、もっと低域が欲しいというときは、、LOW FREQ スイッチ [4] を +2dB の位置にセットするとウーファーの再生周波数がなだらかにブーストされます。これでも低域が十分ではないときは、+4dB の位置にしてもう少し低域をブーストしてください。

高域レスポンス

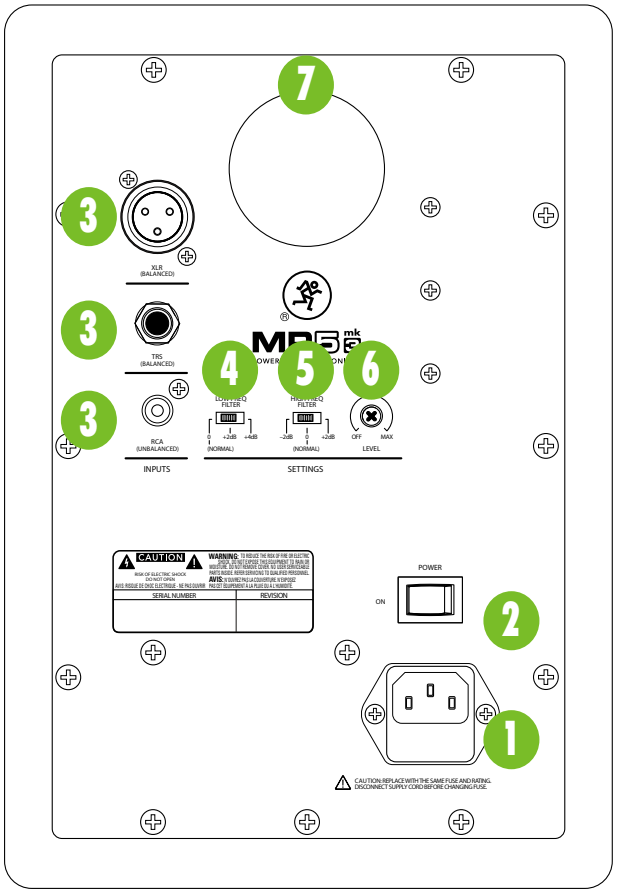
MR8mk3 は中域から高域にかけて滑らかな特性を提供するよう設計されています。しかしミキシングしている間に、高域がもっと欲しい、あるいはもっと減らしたいこともあるでしょう。そんなときは HIGH FREQ スイッチ [5] でツイーターの再生周波数をゆるやかにブースト、またはカットしてください。モニターで高域をブーストしているとミックスがくすんでしまい、反対に減らしているとミックス全体がより輝きを増すことをお忘れなく。

賢者からの一言

- 長時間にわたって音楽を大音量で聴かないでください。全域または周波数を限定した難聴の原因になる場合があります。
- 機器の電源を切るときは、スタジオモニター MRmk3 を最初に切ってください。ショックノイズや他の機器が出すノイズをスピーカーから再生しないようにするためです。電源を入れるときはモニターの電源を最後に入れます。
- 製品の外箱は保管してください。必要になるときがくるかもしれません。
- 購入時のレシートを保管してください。

リアパネル

モニターに信号を接続したり、モニターの置き場所や部屋の環境に合わせて周波数特性を調整するための機能があります。



1. 電源コネクターとヒューズ

標準3ピンのIEC電源コネクターの差し込むソケットです。このソケットに電源コードをしっかり差し込み、もう一方の端を電源コンセントに接続してください。ACコンセントの電圧がこのIECソケットの脇に表示されている電圧に等しいことを確認してください。

グランドピンは危険ですので絶対に取り外さないでください

ヒューズはIEC電源ソケットの下にあるヒューズカバーの後ろに入っています。ヒューズの交換方法に付いては「トラブルシューティング」を参照してください。

2.電源スイッチ

MR8mk3 の電源を入れるスイッチです。本体の電源を入れる前に、レベルコントロール [6] が下げきった状態であることを確認してください。MR8mk3 を AC 電源コンセントに接続して電源スイッチを入れると、フロントパネルのランニングマン・ロゴが点灯して MR8mk3 の動作準備は完了します。

このスイッチの右側を押すと、スピーカーはスタンバイモードになります。この状態ではスピーカーは機能しませんが、回路はまだ稼働しています。完全に電源を切るには、接続している電源を OFF にするか、スピーカーから電源コードを抜いてください。

3. シグナルインプット

ミキサー（または他のシグナルソース）からのラインレベル出力をこのインプットジャックに接続します。バランス XLR、バランス 1/4 インチ、アンバランス RCA という 3 種類の入力コネクターを装備しています。電気的には 3 種類とも一緒に接続されているので、同時に複数の入力ジャックに接続しないでください。

バランス伝送は (アンバランス伝送より) ノイズ除去に優れています。特にケーブルを 6m 以上引き回す場合はバランス接続が好まれます。

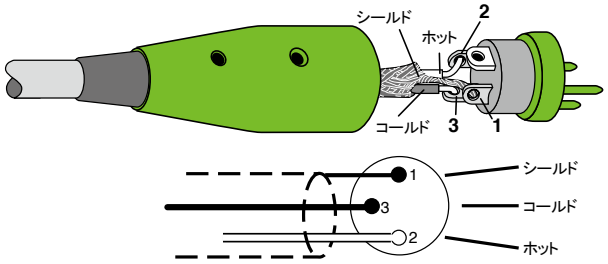
各コネクターはAES (Audio Engineering Society) の規格に従って下記のようにワイヤリングされています。

バランスXLR

1番ピン=シールドまたはグランド

2番ピン=陽極(+またはホット)

3番ピン=陰極(−またはコールド)



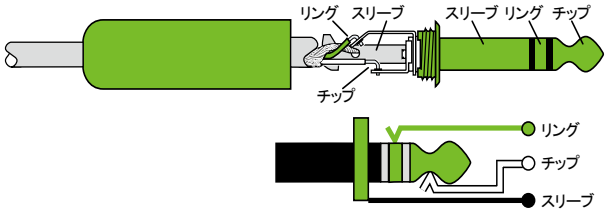
バランスXLRインプットコネクター

バランス1/4インチTRS

スリーブ=シールドまたはグランド

チップ=陽極 (+またはホット)

リング=陰極 (-またはコールド)

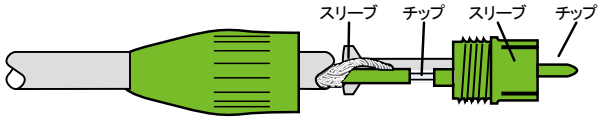


バランス1/4インチTRSフォーンインプットコネクター

アンバランスRCA

スリーブ=シールドまたはグランド

チップ=陽極 (+またはホット



アンバランスRCAコネクター

コネクターについての詳細は 8 ページの付録 B：コネクターをご覧ください。

4. 低域フィルター

全体的な低域特性を、100Hz で +2dB または +4dB するためのスイッチです。

- ほとんどの用途では「0 (NORMAL)」にしておきます。このとき、イコライザー回路はシグナルパスから外れています。
- 低域出力がもう少し欲しいときは、このスイッチを +2dB にします。
- 低域出力がもっと欲しいときは、このスイッチを +4dB にします。ただし覚えておいてください。この機能の動作を逆に考えれば、再生するときに深い低域成分をブーストするということは、実際のファイナルミックスでは減ってしまうことになります。

5. 高域フィルター

全体的な高域特性を、5kHz 以上で ±2dB 操作するためのスイッチです。

3kHz より上を ±2dB[MR5mk3]
3.25kHz より上を ±2dB[MR6mk3]
3kHz より上を ±2dB[MR8mk3]

下記の状況にならない限りこのスイッチは「0 (NORMAL)」のままにしておいてください。

- スピーカーの音を輝かせる、あるいは暗くしたいとき
- 2 台スタックした Marshall の前であまりに多くの夜を過ごしたために難聴になってしまったとき
- ミックスの明るいまたはくすんだ側面を聴きたいとき

どこを聴いてもミックスが常にくすんでいる、あるいは暗いときはたいてい、モニターのサウンドが通常の聴感よりも明るすぎるのが原因です。通常高域エネルギーをやや減らせば解決するので、このスイッチを -2dB の位置にしてモニターの高域出力を減らしてください。

反対にミックスが常に明るすぎるときは、耳を満足させるようモニターに高域エネルギーを追加してください。その結果ミックスの高域成分が減るでしょう。

ミックスの音量はほんとうにすぐ大きくなってしまいます。しかし覚えておいてください。少なくとも大きな音で再生すれば、ミックスはいい音に聞こえます。しかし低めのレベルでミックスすると、大きな音、おそらく実際より少し大きい音で再生してもより良いサウンドに聞こえます。

サウンド・レベル・メーターを見てください。どのレベルでミックスするかを決め、そのレベルを維持してミキシングするためにメーターを使ってください。こうすれば耳にも感謝されるでしょうし、ミックスもより良くなるのです。

6. インプットレベル

MRmk3 の入力はラインレベルの信号を受けます。入力に来る信号の強度に合わせて入力部の感度を調整するときは、このコントロールを使ってください。

- MRmk3 は INPUT LEVEL コントロールが MAX になっているとき、+4dBu の信号で動作するよう設計されています。言い換えれば広いレベルに対応します。
- レベル設定の手順は 3 ページのクイックスタートをご覧ください。

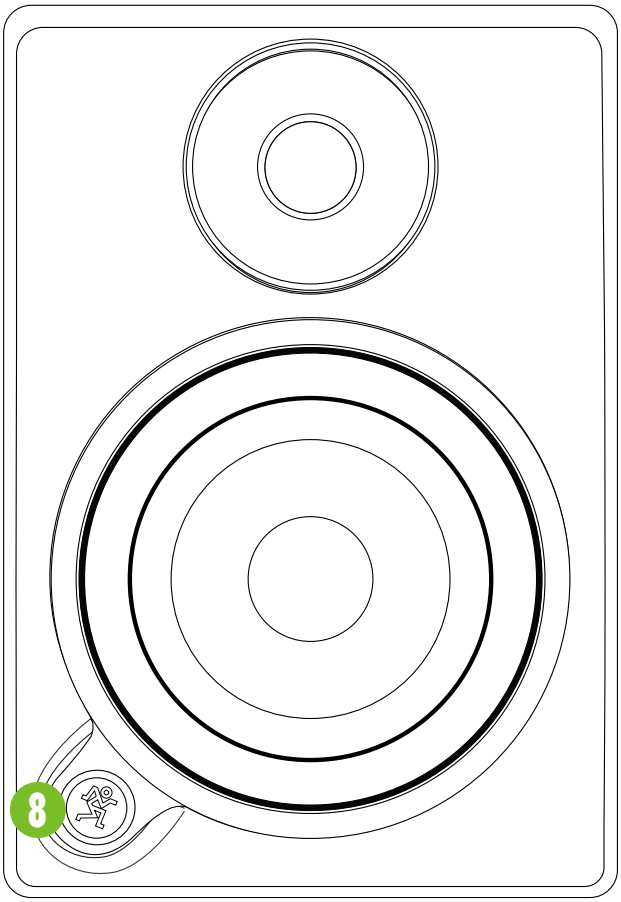
7. カスタム設計バスレフポート

カスタム設計バスレフポートは、ウーファーコーンの後ろからの放射を使って、スピーカーの低域特性を伸ばすものです。ポートの大きさは、キャビネットの容積と再生する低域の限界に合わせて慎重に設計されています。

フロントパネル

8. ランニングマンロゴ LED

AC 電源が供給されていて、背面パネルの電源スイッチ [2] をオンにするとランニングマンのロゴ [6] が点灯します。



保護回路

スピーカーとアンプを不注意による故障から保護するため、MRmk3 には保護用のメカニズムがいくつか組み込まれています。

注意！ プロテクト回路は通常考えられる適切な状況下で、スピーカーを故障から守るよう設計されています。警告となる兆候 (たとえば極端な歪みなど) を無視すると、過負荷によって MRmk3 が故障する場合があります。こうした故障は保証の対象外になります。ご注意ください。

過振幅保護

12dB/oct の High Pass フィルターが低域アンプの動作範囲のすぐ下の帯域で作用し、アンプが超低域の増幅を防ぎます。過剰な超低域エネルギーは、オーバー・エクスカーションとも呼ばれるクリップの物理的な現象と同じ「底を打つ状態」で、振幅が大きくなりすぎるためにウーファーを破損する原因になることがあります。

温度保護

どんなアンプでも熱を発生します。MRmk3 は電気的にも温度の面でも効率的に設計されています。

予期せぬ理由でアンプがオーバーヒートすると、内蔵の温度スイッチが作動して信号をミュートします。

アンプが安全な温度まで冷却されると、温度スイッチがリセットされて通常動作に戻ります。

温度スイッチが作動した場合は、アンプのオーバーヒートを防ぐためにミキサー（またはサブウーファーの背面パネル) のレベル コントロールをすこしだけ絞ってくみてください。
直射日光やステージの照明もオーバーヒートの原因になるので避けるようにしてください。

磁気シールド

MRmk3 には、大きな磁気構造を持つユニットが入っています。ユニットの磁石は磁気シールドされていて、パソコンのモニターやテレビなどに悪影響を与える磁気を周囲に放射しないようになっています。シールドしていないスピーカーをブラウン管の近くに設置すると、画像の形と色が両方とも歪んでしまいます。特に感度の高い PC モニターやテレビがある場合は、スピーカーを 10cm 程度離して置いてください。

入力信号の配線

MRmk3 スタジオモニターの INPUT ジャック [3] にシグナルソースを接続するときは、高品質でシールドされたケーブルを使ってください。

MRmk3 には 3 つのタイプの入力コネクターが用意されており、ほとんどの用途に対応します。

- マイクケーブルは XLR 入力に接続してください。
- バランス TRS ケーブルは 1/4 インチインプットに接続してください。
- アンバランス Phono ケーブルは RCA インプットに接続してください。

NOTE: ケーブルは電源コードやコンセントに近づけないようにしてください。音声信号にハムノイズがのる原因となります。電源アダプターや蛍光灯は特にひどいノイズ源となります

NOTE: ホームシアターのスピーカーレシーバーがプリアンプアウトやラインレベル接続を装備していない場合、スピーカーレシーバーからの出力を MRmk3 スタジオモニターの入力に接続する必要がある場合があります。

注意！ スピーカー出力を直接 MRmk3 の入力に接続しないでください。スピーカーレベルはラインレベルよりかなり高く、MRmk3 の入力回路を破損する場合があります。
しかしレシーバー出力と MRmk3 入力の間に、スピーカーレベルの信号をラインレベルにするアッテネーターを入れると、接続することができます。くわしくは MRmk3 を購入された販売代理店にご相談ください。

配線についての詳しい情報は付録 B : コネクターでイラスト付きで説明しいます。

取り扱いとお手入れ

下記のガイドラインにしたがうことで、MRmk3 スタジオモニターを長年にわたって安心して使うことができます。

- このモニターを霧にあてないでください。
- このモニターを極端に寒いところに置かないでください。
- キャビネットのお手入れには乾いた布を使ってください。必ず電源を切ってからお手入れしてください。

付録A: サービスに関する情報

Mackie 製品に問題が発生した場合は、下記の「トラブルシューティング」を参照して問題点をご確認ください。下記の内容に沿って状況を確認しても問題が解決しない場合、または明らかに製品が故障している場合は、ただちに使用を中止してこの製品をお求めの販売代理店まで修理をご依頼ください。

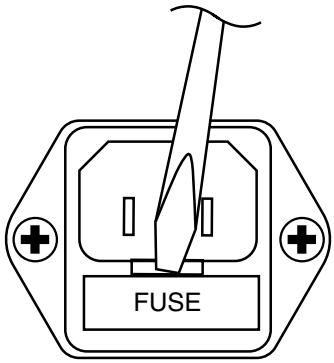
トラブルシューティング

電源が入らない

- Mackie お気に入りの質問。電源コードを接続しましたか？
- 電源コードがしっかり電源入力 [1] と電源コンセントに接続されていることを確認してください。
- コンセントに電源が来ていますか。(テスターや照明器具などで確かめてください。)
- リアパネルの電源スイッチ [2] は ON になっていますか。
- フロントパネルのランニングマンのロゴ [8] は点灯していますか？点灯していない場合は電源コンセントが生きていることを確認してください。コンセントに問題がないときは「音が出ない」を参照してください。
- コンセントに異常がないのに電源 LED が点灯しないときは、ヒューズが飛んでいる場合があります。

ヒューズを交換する手順

1. 電源入力から電源コードを抜いてください。
2. 小さなドライバーでヒューズカバーを引き出すようにして開けてください。ヒューズカバーはスライドして取り出すことができます。
3. ヒューズを外して同じ種類のものに交換してください。



- 115 VAC: T 1 AL / 250 V
  230 VAC: T 500 mAL / 250 V [MR5mk3]
- 115 VAC: T 1.25 AL / 250 V
  230 VAC: T 625 mAL / 250 V [MR6mk3]
- 115 VAC: T 2 AL / 250 V
  230 VAC: T 1 AL / 250 V [MR8mk3]

4. ヒューズカバーを元の場所に押し込み、電源コードを接続し直してください。

ヒューズが 2 回続けて飛んだ場合は、なにか異常があります。この場合は購入した販売店に修理を依頼してください。

音が出ない

- フロントパネルのランニングマンのロゴ [8] は点灯していますか？消えているときは「電源が入らない」を参照してください。
- INPUT LEVEL [6] は上がっていますか。
- シグナルソースのレベルは上がっていますか。ミキシングコンソール (またはスタジオモニターのすぐ手前に接続されている機器) の信号レベルが、再生するのに十分なだけ上がっていることを確認してください。
- ステレオペアの場合は、左右を入れ替えてください。たとえば左の出力に異常があると思われるとき、左右のケーブルをモニター側で差し替えてみます。これで異常のある方が切り替われば、モニターは正常です。ケーブルまたはミキサーからの信号に異常があるでしょう。

音が良くない

- 入力コネクターはしっかり接続されていますか。1/4 インチ TRS は奥まで差し込んでください。
- 音量が高くて歪んでいますか。「クイックスタート」で紹介した手順にしたがって、レベルを適切に設定してください。
- できればヘッドフォンでプリアンプ部の信号を聴いてください。その音が良くなければモニターは正常です。
- 低域が多すぎる、あるいは不足していますか。部屋の中を歩き回って低域特性を聴いてください。リスニングポジションが低域を悪化させたりくすませるルームモードになっているかも知れません。この場合はモニターまたはリスニングポジションの場所を移動してください。

ノイズ、ハム、低域ノイズ

- ミキサーとモニターの間のケーブルを確認してください。すべてきちんと接続されていることを確認してください。接続に問題があるとクラックノイズ、ハム、低域ノイズの原因になります。
- MRmk3 のバランス入力にアンバランス出力を接続している場合は、シールドをソースのアンバランスグランドに、XLR の 1 番ピンと 3 番ピンを接続してください。
- システムにケーブルテレビのケーブルが接続されている場合は、一度外してみてください。これでハムが消えた場合は、そのケーブルのグランド処理を適切にしてください。
- 信号ケーブルが電源コードや電源トランスなど電磁干渉を発生するものの近くに配置されていないか確認してください (電源コンセントも確認してください)。こうしたものはハムを発生させます。
- モニターと同じ電源コンセントに、照明用にディマーなどトライアックベースのものが接続されていませんか。ディマーは低域ノイズの原因になります。電源フィルターを使うか、モニターを別の電源回路に接続してください。
- 極端なヒスノイズが出る場合は、スピーカーの手前のどこかでゲイン設定が正しくないことを表しています。
- 可能でれば、ヘッドフォンでもシグナルソースを聞いてみてください。同じようにノイズが聞こえる場合、モニター以外に原因があります。

付録B:コネクター

バランスXLRインプットコネクター

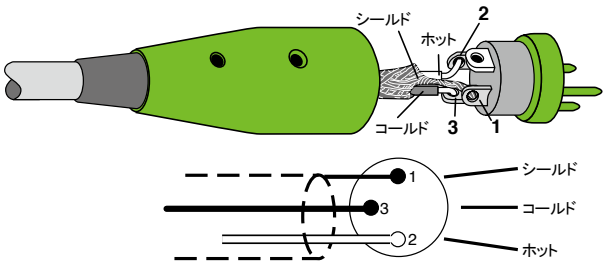
XLR コネクターは MRmk3 にバランス接続をするときに使用します。コネクターはAES (Audio Engineering Society) の規格に従って下記のようにワイヤリングされています。

バランスXLR

1番ピン=シールドまたはグランド

2番ピン=陽極(+またはホット)

3番ピン=陰極(−またはコールド)



バランスXLRコネクター

バランス1/4インチTRSインプットコネクター

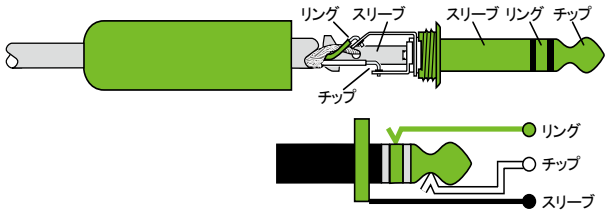
TRSはチップ-リング-スリーブの略で、ステレオ1/4インチのプラグに3つの接点があります。ケーブルはAES (Audio Engineering Society) の規格に従って配線してください。TRSプラグやジャックはMR10Smk3 にバランス接続をするときに使用します。

バランス1/4インチTRS

スリーブ=シールドまたはグランド

チップ=陽極 (+またはホット)

リング=陰極 (-またはコールド)



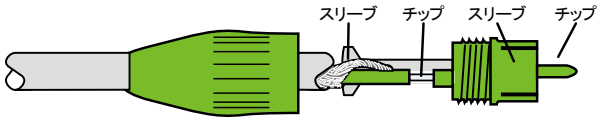
バランス1/4インチコネクター

アンバランスRCAインプットコネクター

RCAタイプのプラグ (PHONOプラグとも呼ばれます) とジャックはよくホームオーディオや映像機器に使われます 。RCAプラグはアンバランスです。信号はセンターピンに、グラウンドやシールドはエッジのガスケットに接続します。

アンバランスRCA

スリーブ=シールドまたはグランド
チップ=陽極 (+またはホット



アンバランスRCAコネクター

ご不明な点は...

- **www.mackie.com/jp**
  にアクセスしてサポートの項目をご覧ください。
- **support_mackie@otk.co.jp**
  までメールをお寄せください。
- テクニカルサポートセンターにお電話ください。
  日本語**04-2944-3811**（月～金曜、**9am** ～ **6pm**）
  英語**1-800-898-3211**（月～金曜、営業時間 **PST**）

付録C:技術情報

MRmk3 仕様

音響特性

周波数特性 (-3 dB):	
	57 Hz – 20 kHz [MR5mk3]
	46 Hz – 20 kHz [MR6mk3]
	38 Hz – 20 kHz [MR8mk3]
音圧レベル (+4dBu バランス入力)	
	102 dB SPL @ 1m [MR5mk3]
	105 dB SPL @ 1m [MR6mk3]
	107 dB SPL @ 1m [MR8mk3]
最大音圧レベル (ペア):	108 dB SPL @ 1m [MR5mk3]
	111 dB SPL @ 1m [MR6mk3]
	113 dB SPL @ 1m [MR8mk3]

トランスデューサー

低域ユニット :	5.25" 双曲線ウーファーコーン [MR5mk3]
	6.5" 双曲線ウーファーコーン [MR6mk3]
	8.0" 双曲線ウーファーコーン [MR8mk3]
高域ユニット :	1" シルクドーム
	ネオジウムマグネット

アンプ

低域アンプ部出力 :	30 W (4Ω) ピーク60W [MR5mk3]
	40 W (4Ω) ピーク80W [MR6mk3]
	55 W (4Ω) ピーク110W[MR8mk3]
高域アンプ部出力 :	20 W (8Ω) ピーク40W [MR5mk3]
	25 W (8Ω) ピーク50W [MR6mk3]
	30 W (4Ω) ピーク60W[MR8mk3]
アンプタイプ:	モノリシックIC, AB級
	DMOS電源部

エレクトロニッククロスオーバー

クロスオーバータイプ :	24 dB/oct
クロスオーバー周波数 :	3 kHz [MR5mk3]
	3.25 kHz [MR6mk3]
	3 kHz [MR8mk3]
感度 :	+4dBu @ 300Hz (フル出力時)
入力インピーダンス :	20kΩ バランス , ブリッジ
	10kΩ アンバランス

イコライザー

低域イコライザー	+2dB/+4dB @ 100Hz シェルビング
高域イコライザー:	±2dB/ @ 3kHzシェルビング[MR5mk3]
	±2dB/ @ 3.25kHzシェルビング[MR6mk3]
	±2dB/ @ 3kHzシェルビング[MR8mk3]

必要電源

必要電源 (日本向け仕様)	100VAC、50/60Hz
電源コネクター	IEC 準拠 3 ピン
	250VAC/16A モデル
ヒューズ（日本向け仕様)	T 1AL/250 V [MR5mk3]
	T 1.25AL/250 V [MR6mk3]
	T 2AL/250 V [MR8mk3]
消費電力	90W(大音量で再生時)
	7W(アイドル状態) [MR5mk3]
	120W(大音量で再生時)
	7W(アイドル状態) [MR6mk3]
	150W(大音量で再生時)
	10W(アイドル状態) [MR8mk3]

注意 : MR10Smk3 サブウーファーはユニバーサル電源に対応していません。 電源ソケットの近くに記載されている電源電圧表示が、お住まいの地域の電源電圧 (日本では 100VAC) に合っていることを確認してください。

寸法と重量

MR5mk3:

エンクロージャー	12mm 厚 MDF 製
	前面パネル 25mm 厚
寸法・重量	
高さ	286mm
幅	197mm
奥行き	276mm
重量	5.5kg

MR6mk3:

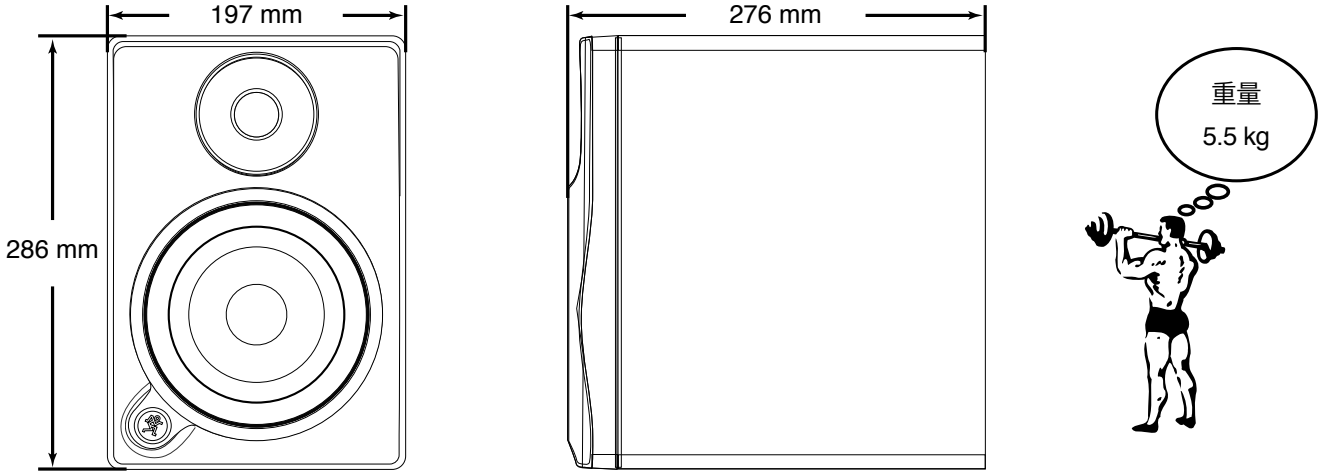
エンクロージャー	12mm 厚 MDF 製
	前面パネル 25mm 厚
寸法・重量	
高さ	323mm
幅	222mm
奥行き	305mm
重量	7.2kg

MR8mk3:

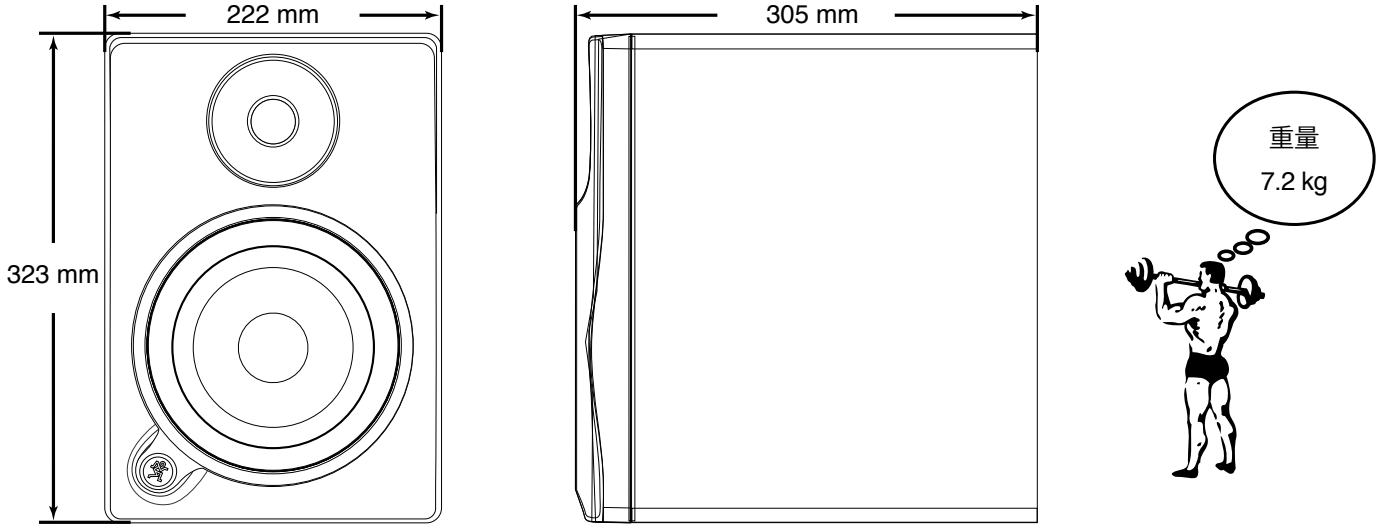
エンクロージャー	15mm 厚 MDF 製
	前面パネル 25mm 厚
寸法・重量	
高さ	400mm
幅	277mm
奥行き	336mm
重量	10.8g

LOUD Technologies 社は、常に新しい素材、部品、製造方法を取り入れて製品を改善するよう努めているため、製品の外観および仕様は予告なく変更することがあります。

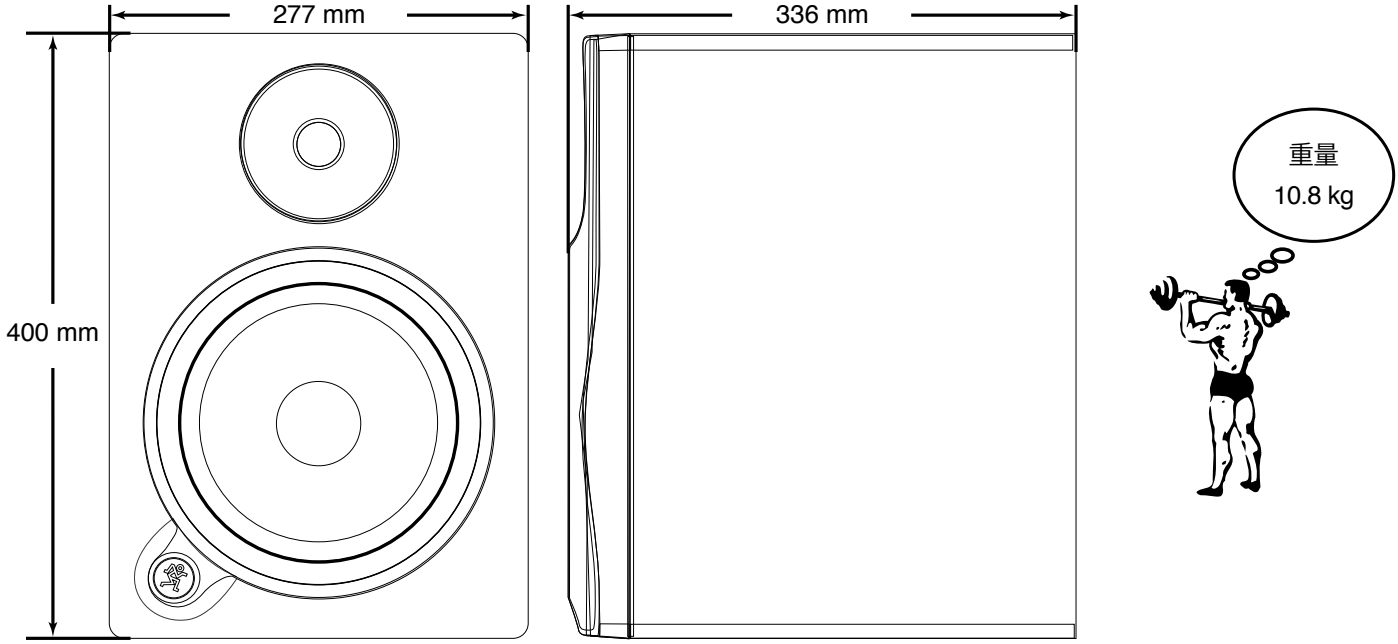
MR5mk3 寸法



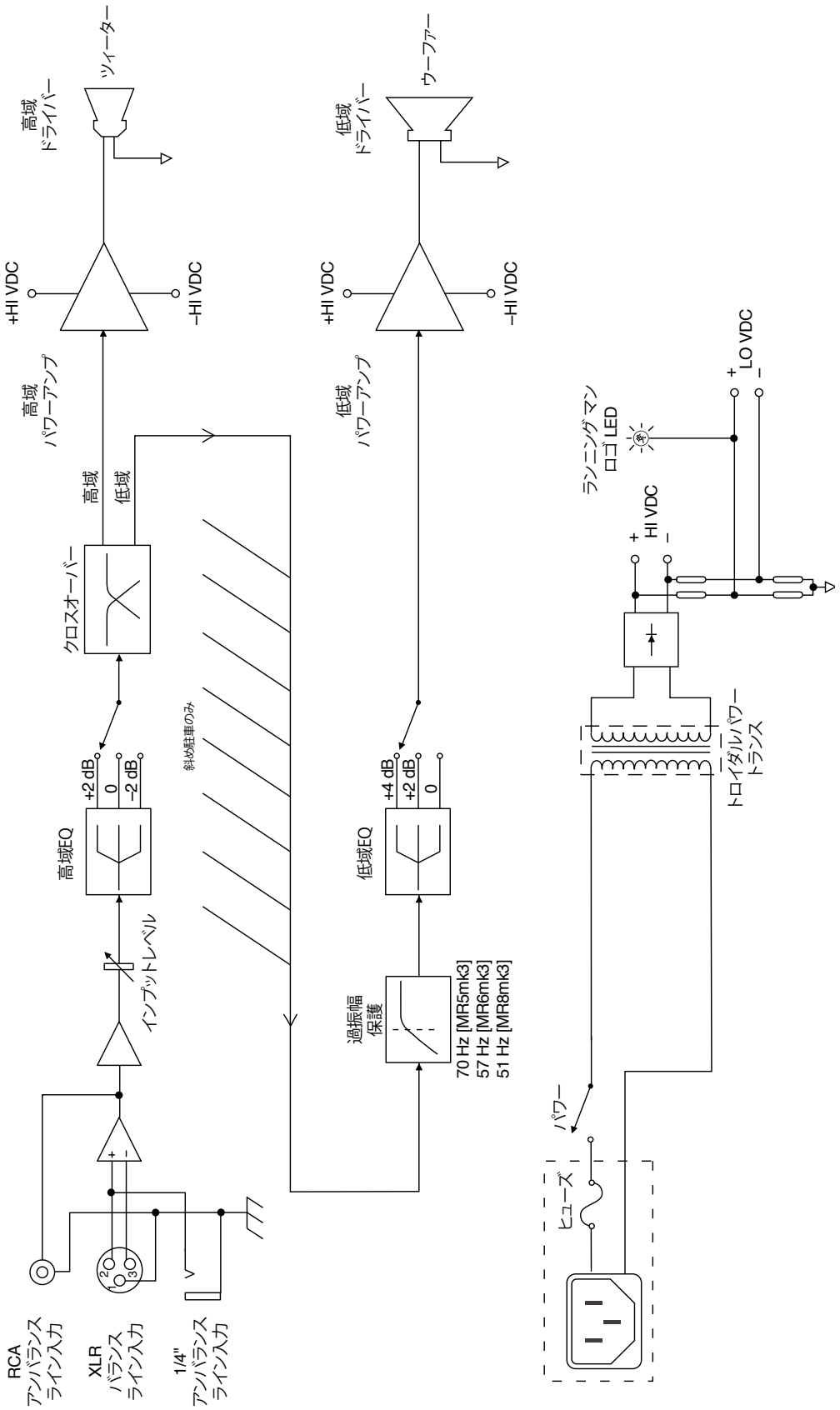
MR6mk3 寸法



MR8mk3 寸法



MRmk3 ブロックダイヤグラム



「MRシリーズ、「ランニングマン」、「Running Man」はLOUD Technologies社の登録商標です。他の商品名または会社名は各社の商標または登録商標です。

音響特機株式会社

www.otk.co.jp
info@otk.co.jp

東京都中央区日本橋小伝馬町10-1 TEL 03-3639-7800 FAX 03-3639-7801
大阪府大阪市淀川区宮原2-14-4階 TEL 06-6152-7751 FAX 06-6152-7752
名古屋市東区泉1-23-30 TEL 052-950-3324 FAX 052-950-3325
福岡市南区大橋4-16-18-201 TEL 092-554-6066 FAX 092-554-6064